

I V R セ ン タ ー

1. スタッフ

センター長（兼）准教授 大須賀 慶悟
その他、助教1名（兼任を含む。）

2. 診療内容

IVR (Interventional Radiology) とは「画像下治療」と和訳され、血管造影・超音波・CTなどの画像診断装置を用いて、画像ガイド下に経皮的手技を行う分野である。当センターは、平成26年4月より開設され、放射線診断科を中心に各診療部門ならびにメディカルスタッフと連携しながら包括的なIVR診療体制を構築し、IVRにかかわる人材の育成や、IVR診療の安全な運用を目指している。

IVRセンターでは、画像診断に精通したIVR医・放射線技師・看護師らがチームとなり、下記に示す様々なIVRを行っている。大きく分けて、カテーテルを用いる血管系IVRと、経皮的穿刺下に行う非血管系IVRがあり、その対象は、小児から高齢者まで全身多岐の疾患に渡る。

IVRは、外科的手術と比べて体への負担が少ないため、多くの診療科で扱う疾患の診断や治療過程において、不可欠な選択肢になっている。従って、がん診療（オンコロジー）、血管診療、消化器診療、呼吸器診療、救急医療、小児医療、周産期医療、移植医療、感染制御、リスクマネージメントなど、様々な分野の診療科及び部署と横断的に連携しながら、IVR診療に取り組んでいる。一方、IVRの多くは放射線被曝を伴う処置であること、特有の合併症リスク（穿刺に伴う内出血、感染、塞栓症など）があることから、安全性の向上や情報共有にも努めている。

【血管系IVR】

- ・腫瘍塞栓術：肝・腎・頭頸部・骨軟部腫瘍、子宮筋腫
- ・血管塞栓術：内臓動脈瘤、AVM、大動脈瘤エンドリーク、消化管静脈瘤、精索静脈瘤
- ・動注化学療法：肝・頭頸部腫瘍
- ・血管形成術：末梢・腎動脈疾患、透析シャント不全、移植肝血管狭窄
- ・静脈系：下大静脈フィルター、副腎静脈サンプリング、CVポート、上大静脈症候群、静脈奇形硬化療法
- ・止血術：外傷性・医原性出血、消化管出血、喀血、産科出血、鼻出血 など

【非血管系IVR】

- ・CTガイド下腫瘍生検
- ・CTガイド下腫瘍アブレーション：
肝癌ラジオ波、腎癌凍結療法
- ・胆道ドレナージ・ステント
- ・膿瘍・嚢胞ドレナージ
- ・嚢胞・リンパ管奇形の硬化療法
- ・リンパ管造影 など

3. 診療体制

院内患者については、IVR予約専用PHSにて随時電話対応している。IVRの内容に応じて、IVR外来の受診をお願いする場合があります。放射線科外来にて、月曜・火曜・木曜に、患者診察や治療適応の相談を行っている（表1）。院外からの患者紹介については、保健医療福祉ネットワーク部を通じて、月曜に予約枠を設けているが、内容によって、関連診療科の受診を先に勧めている。

処置の大半は、局所麻酔下に行えるもので、主に放射線部の血管造影室やTV室で行っている。全身麻酔が必要な症例や救急疾患の場合は、手術部や救命救急センターの血管造影室で行っている。夜間・休日の緊急IVRの要請には随時オンコール対応している。

4. 診療実績

平成29年度の主なIVR手技の施行件数を表2に示す。

5. その他

諸学会の認定施設、専門医の数

- ・日本IVR学会認定修練施設 IVR専門医：4名
- ・日本脈管学会認定施設 脈管学会専門医：3名

表1 IVR外来スケジュール

	月	火	水	木	金
初診・再診	終日	午後		午前	

表2 平成29年度の主なIVR手技の施行件数

内容	件数
血管造影	59
肝臓に対する動脈化学塞栓術(TACE)	122
血管塞栓術（他の腫瘍、血管病変、止血術 等）	167
動注・リザーバーなど	51
静脈奇形に対する硬化療法	63
血管形成術	29
門脈系IVR（BRTO/PTO）	10
CVカテーテル・ポート留置術	328
静脈サンプリング	36
下大静脈フィルター留置術	10
経皮的腫瘍生検	98
胆道ドレナージ・胆管ステント・ 膿瘍ドレナージなど	242
腎凍結療法・肝RFAなど	17
異物回収、その他	42
合計	1,274

IVRセンターホームページ : <http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/departments/ivr.html>